

島根県立大学 国際関係学部 小論文対策:完全攻略マニュアル[最新・統合版]

～「知的な怠惰」を脱し、国際社会の「相克」を解説する～

島根県立大学の小論文は、過去問を遡るほど、一貫した「思想」が見えてきます。大学側が求めているのは、安易な理想論ではなく、現実の国際社会が抱える「矛盾」や「二面性」を、学術的な枠組みで解体できる知性です。

1. 核心となる思考:高坂正堯の「三つの体系」を使いこなす

本学部の入試を貫く最大のフレームワークです。あらゆる事象を以下の三層で「切り分ける」ことが合格への第一歩です。

1. **力の体系(Power)**: 軍事力、安全保障、物理的な支配。敗戦後の「力の真空(R7)」や、核兵器という「破壊能力(R4)」など。
2. **利益の体系(Interest)**: 経済的繁栄、サプライチェーン、資源。相互依存の武器化(類題)や、統治のための「利益の分配」など。
3. **価値の体系(Value)**: 宗教、歴史認識、人権、そして各民族が持つ独自の「正義(常識)」。スウェーデンの「民主主義の価値(R5)」や、近代日本の「人種観(R6)」など。

【アップデート:合格への鍵】近年の問題では、特に**「価値の体系」が「力」や「利益」をいかに規定するか**が問われています。例えば、人権という価値を守るために「中立(利益)」を捨てるスウェーデンの論理(R5)や、自国の支配(力)を正当化するために人種(価値)という概念を利用した日本の歴史(R6)などがその典型です。

2. 禁句と戒め:「知的な怠惰」と「概念のすり替え」を見抜く

問題を単純化することは「知的な怠惰」として厳しく否定されます。さらに、近年は**「言葉によって本質を隠蔽する行為」**への批判的視点が求められています。

- **避けるべき「知的な怠惰」:**
 - 「悪役を除去すれば平和になる(R7 推薦)」という単純な善悪論。
 - 「人種」という言葉を「民族」にすり替えて加害性を隠す行為(R6)。
 - 「中立」という言葉で差別への沈黙を正当化する行為(R5)。
- **求められる思考:**
 - 対立の背後にある「構造的なジレンマ(相克)」を指摘すること。
 - 概念(人種、民主主義、独立、平和)がどのような意図で使われているかを「再定義」すること。

3. 国際関係の「ジレンマ(相克)」を記述する

最新の過去問(R7, R6, R5)に共通して流れるのは、「あちらを立てればこちらが立たぬ」というジレンマです。

- **独立と統一の相克(R7)**: 独立を急げば分断が定着し、統一を求めれば戦争が起きる。
- **支配者と被差別者の二面性(R6)**: アジアを支配(差別)しつつ、欧米からは差別されるという矛盾。
- **中立とミッションの相克(R5)**: 多様な意見を尊重(中立)しようとするれば、民主主義の価値(人権)が守れなくなる。

【対策】論述の中で「確かに～しかし～」という逆接を用い、「一筋縄ではいかない複雑な現実」を

そのまま引き受けて論じる姿勢を見せてください。

4. アイデンティティの問い:「日本人」という自画像を更新する

「自分」と「他者」の境界線を問い直す力が不可欠です。

- **自画像(Mirroring)**: 他者(被爆者、旧植民地出身者、外国人住民、被差別民族)を鏡として、自分たちの正体を知ること。
- **制度の暴力性**: 戸籍(R7 推薦・総合型)や「民族」という言葉(R6)が、いかにして「純粋な日本人」という排他的な自画像を作り上げてきたかを批判的に検証する。

5. 本番で差をつける「設問別・高度化戦略」

問1・問2: 因果関係のレトリック(100～200 字)

- **戦略**: 本文の要約だけでなく、「概念の対比」を明確にする。
- **コツ**: 「日本は(A: 支配者)でありながら(B: 被差別者)でもあったため、(C: 民族)」という言葉に逃げ込んだ」というように、**矛盾の構造**を一行で射抜く。

問3: 総合論述(600～800 字)

近年の傾向として、字数が 800 字に増える場合があります。論理を厚くする構成テンプレートです。

1. **現状の再定義(150 字)**: 課題文の核心(例: 知的な怠惰、相克)を現代の文脈で定義する。
2. **多層的分析(250 字)**: 事例(核兵器、SNS の分断、サプライチェーン等)を「力・利益・価値」で解剖する。
3. **歴史と現代の接続(200 字)**: R6 の差別構造や R7 の力の空白など、歴史的背景が現代にどう影を落としているか述べる。
4. **道義的目覚めと結論(200 字)**: R4 の「道義的想像力」や R5 の「能動的な市民性」を用い、自分自身がどうこの問題に向き合うか(自画像の更新)で締める。

指導者・保護者の方への最終メッセージ

島根県立大学の入試は、**「自分の正義が唯一絶対ではない」**と気づき、複雑な世界を粘り強く解きほぐす「知的労働」への招待状です。生徒が「分かりません」と悩んだ時こそ、複数の正義が衝突する「相克」の現場に立っている証拠です。その悩みを、論理的な言葉に変えるサポートをお願いします。